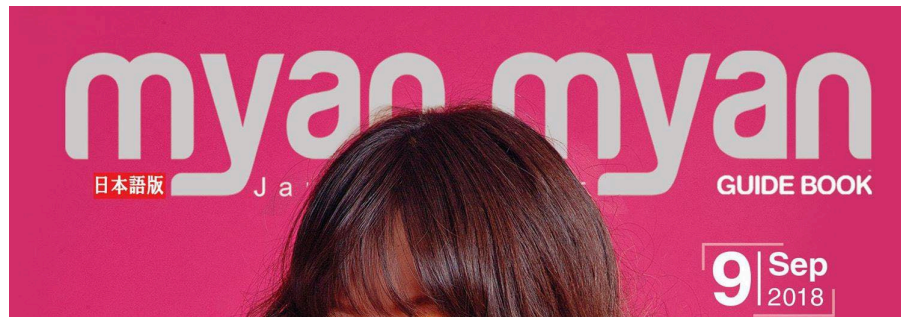


ミャンミャンガイド (ミャンマー国内 案内誌) に  
「第8回 日本語体験コンテスト in ヤンゴン」について掲載されました!



8月25日にノボテル・ホテルで、26日にはメリア・ホテルで、日本語スピーチコンテストが開催された。両大会ともに、優勝者は日本を訪問して各国代表との交流を行う。

News  
今月の日本語スピーチコンテスト



年々ハイレベルな闘いに!

日本語スピーチコンテストが2日連続で開催される!!

例年行われている日本語スピーチコンテスト。今年は、8月下旬に2つが開催された。

まず8月25日にノボテル・ホテルで開催されたのは、国立国際交流奨学財団主催、MOMIJI日本語センター運営で、日本の文科省や在ミャンマー日本大使館、ANAが後援する「第8回日本語体験コンテスト in ヤンゴン」。

応募者59名。午前の予選では、日本の政治、経済、時事、スポーツ、芸能、歴史などあらゆる分野からの質問が30問。誰が通過するなど、予想もつかない。N1もN4も関係なくスリリングさがある。得点上位16名が、午後の本選会に進出した。

本選会では、テーマがその場で3つ出題され、各自が1つを選択。シンキングタイムは5分間。その後、まとまった人から挙手をし、3分間以内でスピーチ発表となる。スピーチの内容や話し方が主な採点基準となるが、早く挙手をした方がポイントが高い。その場で考えて即発表という過酷なもので、緊張感満載だ。

入賞したのは5名。入賞者は、1月に1週間の日本体験旅行に参加する。タイ、カンボジア、ベトナム、インドネシア、マレーシアからの入賞者も同時参加する。

翌26日にメリア・ホテルで開催されたのが、在ミャンマー日本大使館とMAJA(ミャンマー元日本留学生協会)主催の「第19回日

本語スピーチコンテスト」。ヤンゴンとマンダレーで一次予選が行われたが、応募者はヤンゴンだけでも約80名おり、昨年までの倍近くに激増した。これも、日本に関心のある若者が増えたからであろう。

こちらは、5分間で、各自が考えてきたスピーチを行う。質疑応答も採点に入る。真剣な発表、笑いあいの発表など様々で、ハイレベルな争いになった。自らの経験を通して、いかに自分の考えを言葉で伝えられるか。日本人の話し方に近い自然な話し方ができているかなど、審査基準は厳しい。

優勝したのは、「私に夢を与えてくれた子どもたち」を発表したNway Oo Khineさん。秋に開催のASEAN各国のスピーチコンテスト優勝者が日本に集まるプログラムに参加する。今年は、優勝者以外の本選出場者のうち、JENESYS(21世紀東アジア青少年大交流計画=Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths)等各種招へい事業の条件を満たす人全員に、訪日する機会が提供されるという。

同時に、第13回日本文学翻訳コンテスト、第3回日本昔話翻訳コンペティションの表彰式も行われた。

日本語を勉強する人たちはさらに増えていき、レベルはますます上がっていくと思われる。日本人としては、うれしいことである。